

「ガーディアンの気持ち」ならぬ「私の独り旅行記」 第1回

2022年3月4日～8日（5日間）

今回の旅は特に秘湯の湯を求めてのものではなかった。初めて「大人の休日クラブ」の安いチケット（5日間、JR 東日本と JR 北海道の新幹線 & 在来線乗り放題、指定席も5回適用で26,620円という安さ）があることを知り、それではまず北海道と東北に行ってみよう、軽い気持ちからでした。私の旅は計画の段階から旅の始まり、とっていますのでワクワクしながら計画を立てました。

第1日（3月4日）

自宅発（6：00）→南公園発（6：10）→JR 二宮駅発（6：25）→東京到着（7：48）

東京発（8：20の新幹線はやぶさ7号）→新函館北斗着（12：17）

なんと東京から函館まで4時間弱。私にしてみれば正に夢の超特急。3月は大磯では春でしたが福島を過ぎる頃から窓の外は雪景色。青函トンネルをくぐって北海道に入るとそこはまだ真冬の雪国でした。

朝市や函館山で有名な函館は新幹線の終点、新函館北斗から電車で6駅、25分程です。第1日の温泉は函館湾の近くの函館温泉のLA VISTAというホテルで、夕食まで時間があつたので函館湾や赤レンガ倉庫まで1時間ほど雪道を歩いてきました。温泉は素晴らしかったし、夕食のフランス料理も良かったのですが、やはり一人での黙食は今までになく少々寂しいものがありました。

第2日（3月5日）

函館から函館本線でまず札幌に出ます。札幌まで特急で4時間弱、なんと東京から新幹線で新函館北斗までと同じ位の時間で、改めて北海道の大きさ、広さを知ることになりました。札幌から小樽方面に雪景色の中を小樽築港駅まで行き、そこから朝里温泉の宿までバスで90分程、もう夕方でした。バス停からホテルの玄関までは100メートル位でしたが雪道のそれは結構大変でした。しかしその甲斐あつたか？雪の中に入る露天風呂は最高でした。

第3日（3月6日）

3日目は本州に戻って盛岡からバスでつなぎ温泉までの旅でした。やはり、終日バス、電車、バスの乗り継ぎで少々疲れしました。盛岡からは遠く離れたつなぎ温泉の湯守ホテル大観です。割と大きなホテルでしたがやはりコロナの影響からかすいていました。つなぎ温泉というのは盛岡からバスで2時間ほど、割と近いので日帰り温泉としても有名なようでした。源泉かけ流しの露天風呂は風情があつてよかったです。日曜日が春休みか？家族連れが多いように思えました。また、北海道よりも少し雪が少ないように感じました。

第4日（3月7日）

この日は仙台から少し離れた鄙びた温泉に行くつもりでしたが、どこも予約出来ず、意に反して有名な秋保温泉のデラックスホテルに泊まってしまいました。秋保温泉は関東で言えば熱海や箱根のような東京の奥座敷といった温泉でどこも大きな立派なホテルでした。温泉も食事もそれなりに素晴らしかったが、私には似つかわしくないように思えました。

こうして第1回目温泉独り旅は終わるわけですが、まだまだ皆さんにここはお勧めです、と言えるような温泉に巡り会えません。しかし終わりのころにはきつと「この温泉はお勧めです、ぜひ行ってください」といえる温泉に巡り合えるはず。私の新幹線や在来線の列車の旅の過ごし方を紹介します。

私は新幹線で行く北海道の新函館北斗まで4時間、いつもですが全く退屈する事なく過ごしています。

まず、メル友が10人程いて、私の安否確認を兼ねてlineやメールで窓からの景色を見ながらスマホで写真を撮って伝えています。次に本を1冊持ってきてコーヒーを飲みながら読んだり、たまに居眠りをしたりしますが、まったく飽きることがありません。まるで子供？のようです。

それから今回の旅ではどんな温泉があり、どんな出会いがあつたりするかな？と思いを馳せながら独り旅することは、今まで経験したことがない旅の楽しみ方のように感じました。

文章力はありませんが、旅のその時、その時を少しでも伝えることが出来たらいいなと思いながら書いてゆきます。 By テツ&ゴン